

第 30 回原子力安全専門委員会定例会
(結果概要)

原子力安全対策課

1. 日 時：平成24年 1 月13日（金） 14時00分～15時00分
2. 場 所：福井県庁10階 総合防災センター
3. 出席者：
(委員) 中川委員長、三島委員、田島委員、飯井委員、山本委員、泉委員
(県) 岩永課長、前川所長 他

4. 結果概要

資料 1－2（原子力発電所周辺の環境放射能調査報告の概要）について、主に、次の質疑があった。

(主な質疑)

- Q. 資料 1－2 (P14) の降下物の核種分析結果について、大飯地区と対照地区の過去 3 ヶ年実績においてセシウム 134 が検出されているがこれは何が原因なのか。
- A. 過去 3 ヶ年実績は平成 20 年度～22 年度のものであり、平成 23 年 3 月に福島第一原発事故の影響と考えられるセシウム 134 の検出があった。他の地区についても 4 月以降検出があることから、同様に影響があったと考えられるが、3 月は検出限界を超えなかった。

資料 2－2（原子力発電所の運転および建設状況）については、主に次の質疑があった。

- Q. 美浜 2 号のトラブルについて、液体廃棄物処理能力は 2800 リットル/時間となっているのに対してグランドリークオフ流量は桁が小さいのはどういうことなのか。
- A. グランドリークオフ流量 230 リットル/時間がドレンタンクに入るがこれとは別に温度を下げるための水を 1800 リットル/時間くらい入れている。これらを足し算すると 2000 リットル/時間くらいになる。

その他、資料の内容について、特にコメントはなかった。本日配付した資料は、次回の原子力環境安全管理協議会にて配付予定である。